

平成28年3月期第3四半期 決算概要



東京TYFG

平成28年2月10日公表

株式会社 東京TYフィナンシャルグループ

< 目次 >

平成28年3月期第3四半期決算サマリー・・・3

平成28年3月期第3四半期業績の進捗・・・4

貸出金利回り・預金利回り・・・5

貸出金・・・6

業種別貸出金・・・7

預金・・・8

有価証券・・・9

預かり資産・・・10

金融再生法開示債権・与信関係費用・・・11

自己資本比率・・・12

コアOHR・・・13

■ 本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意ください。

■ 本資料やIRに関するご意見、お問い合わせは下記までお願いいたします。

東京TYフィナンシャルグループ 経営企画部

東京都民銀行 経営企画部 広報室
TEL 03-3505-2155

八千代銀行 経営企画部 IR課
TEL 03-3352-2295

平成28年3月期第3四半期 決算サマリー

業績推移

(百万円)

	東京TYFG(連結)	
	26/12	27/12
①連結経常収益	44,583	59,971
②連結業務粗利益	38,546	52,250
③(連結コア業務粗利益)	(37,279)	(50,929)
④資金利益	28,601	39,656
⑤役務取引等利益	7,307	9,383
⑥その他業務利益	2,637	3,211
⑦経費(△)	29,105	40,991
⑧与信関係費用(△)	869	1,858
⑨株式等関係損益	175	840
⑩持分法による投資損益	287	117
⑪その他	△551	738
⑫経常利益	8,482	11,097
⑬特別損益	50,416	148
⑭うち負ののれん発生益 ※	50,476	—
⑮税金等調整前四半期純利益	58,899	11,245
⑯法人税等(△)	2,829	3,772
⑰四半期純利益	56,069	7,472
⑱非支配株主に帰属する四半期純利益(△)	39	20
⑲親会社株主に帰属する四半期純利益	56,030	7,452

	東京都民銀行(単体)		
	26/12	27/12	増減
①経常収益	34,018	32,451	△1,567
②業務粗利益	28,710	27,261	△1,449
③(コア業務粗利益)	(28,222)	(26,923)	(△1,299)
④資金利益	22,223	21,632	△591
⑤役務取引等利益	4,840	4,149	△691
⑥その他業務利益	1,646	1,479	△167
⑦うち国債等債券損益	487	337	△150
⑧経費(△)	21,913	21,268	△645
⑨うち人件費(△)	10,015	10,038	23
⑩うち物件費(△)	10,834	10,112	△722
⑪コア業務純益	6,309	5,655	△654
⑫一般貸倒引当金繰入(△)	△511	△110	401
⑬業務純益	7,308	6,102	△1,206
⑭臨時損益	△1,646	△271	1,375
⑮うち貸倒引当金戻入益	—	—	—
⑯うち不良債権処理額(△)	1,369	1,466	97
⑰うち株式等関係損益	186	720	534
⑮経常利益	5,662	5,831	169
⑯特別損益	△51	166	217
⑰法人税等(△)	1,859	1,891	32
⑱四半期純利益	3,750	4,106	356
与信関係費用(△)	857	1,356	499
連結経常収益	35,232	33,413	△1,819
連結経常利益	6,845	6,721	△124
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,571	4,456	△115

	八千代銀行(単体)		
	26/12	27/12	増減
①経常収益	30,657	27,737	△2,920
②業務粗利益	25,248	24,603	△645
③(コア業務粗利益)	(23,244)	(23,497)	(253)
④資金利益	20,489	19,711	△778
⑤役務取引等利益	2,358	3,267	909
⑥その他業務利益	2,400	1,624	△776
⑦経費(△)	2,004	1,106	△898
⑧与信関係費用(△)	19,665	18,860	△805
⑨株式等関係損益	10,937	10,759	△178
⑩持分法による投資損益	7,628	6,883	△745
⑪その他	3,578	4,636	1,058
⑫経常利益	—	△170	△170
⑬業務純益	5,583	5,913	330
⑭臨時損益	1,211	△461	△1,672
⑮うち貸倒引当金戻入益	1,195	—	△1,195
⑯うち不良債権処理額(△)	643	681	38
⑰うち株式等関係損益	112	155	43
⑮経常利益	6,795	5,452	△1,343
⑯特別損益	△8	112	120
⑰法人税等(△)	2,157	1,837	△320
⑱四半期純利益	4,630	3,727	△903
与信関係費用(△)	△551	511	1,062
連結経常収益	31,255	28,220	△3,035
連結経常利益	7,273	5,711	△1,562
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,801	3,819	△982

※26/12の決算には、当社設立に伴う「負ののれん発生益」504億円が含まれております。

◆ 東京TYFG(連結)の業績

○ 経常利益110億円、親会社株主に帰属する四半期純利益74億円を計上。

※東京TYFGは26/10設立のため、前年同期(26/12)の東京TYFGの連結損益に算入されている項目は以下の通りです。

- ・会計上の取得企業である東京都民銀行の26/4～26/12の連結損益
- ・会計上の被取得企業である八千代銀行の26/10～26/12の連結損益
- ・東京TYFGの26/10～26/12の単体損益
- ・その他連結決算の際に発生する所要の修正(負ののれん発生益等)

※上記表示は百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成28年3月期第3四半期業績の進捗

■ 計画および進捗率(東京TYFG連結)

(億円)

	27/12 実績	28/3 計画	進捗率	27/3 実績(参考)
経常利益	110	129	85.2%	118
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	74	85	87.0%	※572
ROE(両行連結の合算)	—	4.74%	—	5.56%

※ 27/3の当期純利益の実績には、「負ののれん発生益」504億円の特異要因が含まれております。

■ 計画および進捗率(東京都民)

(億円)

	27/12 実績	28/3 計画	進捗率	27/3 実績(参考)
①コア業務粗利益	269	375	71.7%	372
②うち資金利益	216	287	75.2%	292
③経費(△)	212	288	73.6%	288
④コア業務純益	56	86	65.1%	83
⑤与信関係費用(△)	13	20	65.0%	15
⑥経常利益	58	67	86.5%	68
⑦当期(四半期)純利益	41	43	95.3%	34
⑧経常利益(連結)	67	77	87.0%	80
⑨親会社株主に帰属する当期 (四半期)純利益	44	48	91.6%	42

◆ 平成28年3月期計画に対する進捗

- 東京TYFG(連結)の27/12期業績の進捗は、経常利益85.2%、親会社株主に帰属する当期純利益87.0%と順調な推移。
- 東京都民銀行は、経費等が低水準で推移したことにより、経常利益は86.5%、当期純利益は95.3%の進捗。
- 八千代銀行は、与信関係費用が低水準で推移したこと等により、経常利益は81.8%、当期純利益は80.4%の進捗。

■ 計画および進捗率(八千代)

(億円)

	27/12 実績	28/3 計画	進捗率	27/3 実績(参考)
①コア業務粗利益	234	314	74.5%	312
②うち資金利益	197	267	73.7%	273
③経費(△)	188	256	73.4%	257
④コア業務純益	46	58	79.3%	55
⑤与信関係費用(△)	5	13	38.4%	△3
⑥経常利益	54	66	81.8%	93
⑦当期(四半期)純利益	37	46	80.4%	60
⑧経常利益(連結)	57	70	81.4%	99
⑨親会社株主に帰属する当期 (四半期)純利益	38	49	77.5%	63

貸出金利回り・預金利回り

■ 利回り推移 (2行合算)

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)
貸出金利回り	1.62	1.53	1.52	1.40
預金利回り	0.06	0.05	0.05	0.05
預貸金利回り差	1.56	1.48	1.47	1.35

(%)

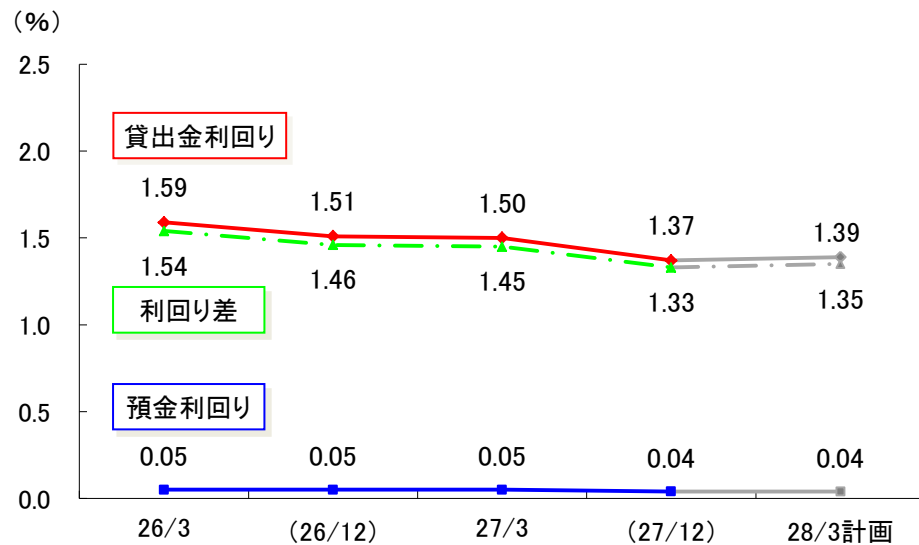
◆ 貸出金利回り

○ 景気の緩やかな回復傾向は続くものの、中小企業における資金需要喚起への影響はまだ限定的であり、競合激化のなか貸出金利回りは低下傾向が続く。

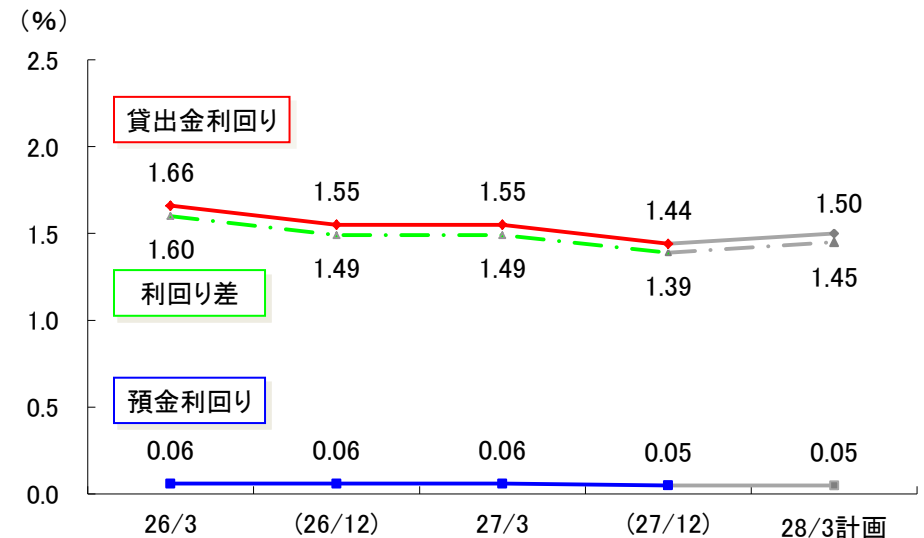
◆ 貸出金利回り改善への取組み

○ 金融プラットフォームサービス“Club TY”を中心に、付加価値の高いサービスの提供やきめ細かな対応を図ることで、お客さまとの信頼関係を高め、競争優位性を発揮し、貸出金利回りの下げ幅縮小を図る。

■ 利回り推移 (東京都民)



■ 利回り推移 (八千代)



※ 各3月期は年間の利回り、9月期は年度初来6ヶ月間の利回りを表示しております。

貸出金

■ 貸出金残高（東京TYFG連結）

（億円）

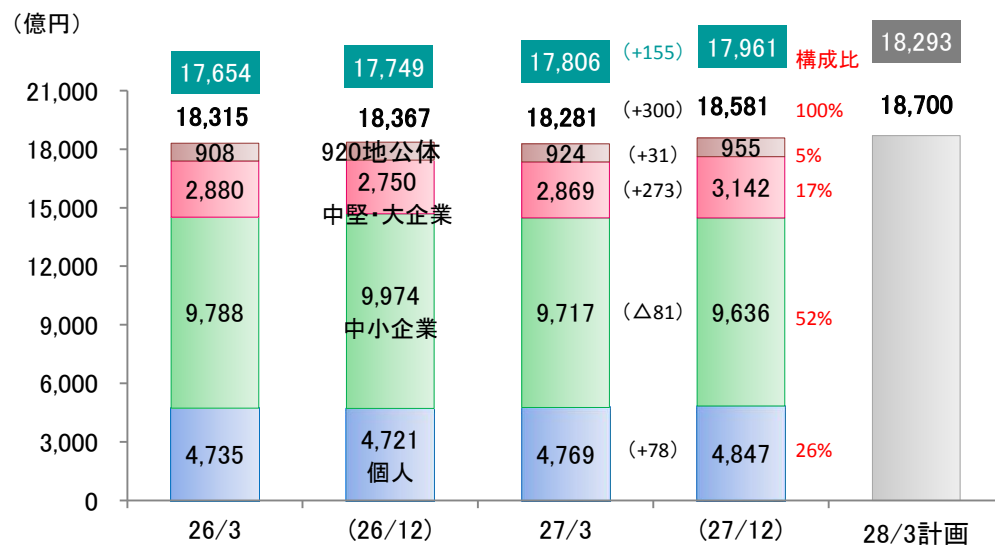
	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
貸出金末残	33,032	32,948	33,720	+772

◆ 貸出金残高

- 東京TYFG（連結）の貸出金残高は、前年度末比772億円増加の3兆3,720億円となる。
- 東京都民銀行では、中小企業向けが伸び悩んだものの、中堅・大企業向け及び個人向けが増加したことにより、前年度末比300億円増加の1兆8,581億円となる。
- 八千代銀行では、横浜事業法人室の新設をはじめとした営業体制の強化等により法人向けが増加し、前年度末比475億円増加の1兆5,135億円となる。
- 東京TYFGの預貸率は74.2%
- 2行合算では79.3%が中小企業及び個人向けの貸出。

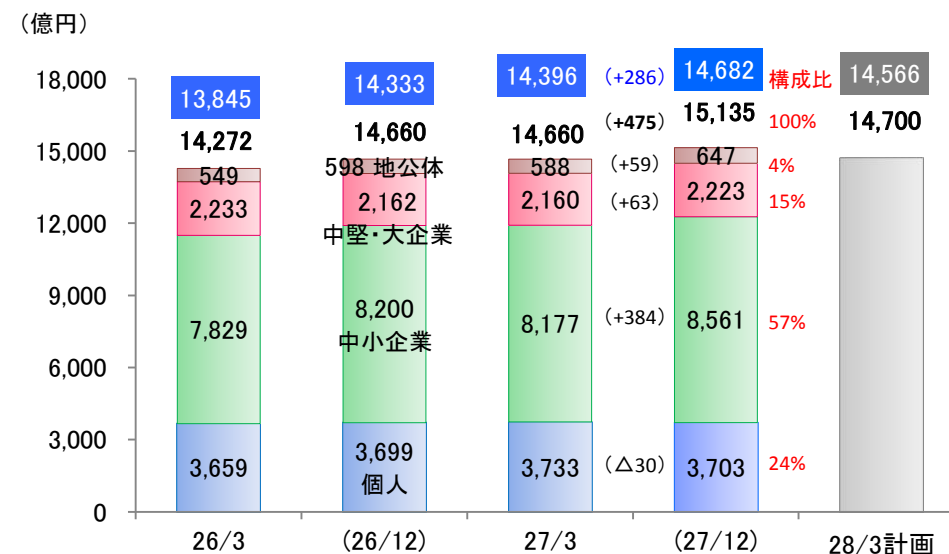
■ 顧客別貸出金残高推移（東京都民）

（白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減）



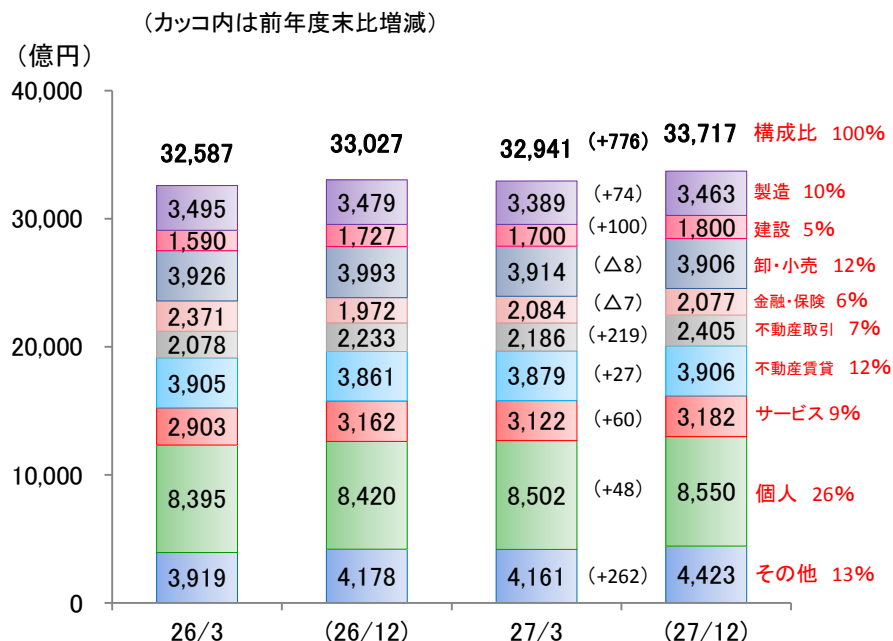
■ 顧客別貸出金残高推移（八千代）

（白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減）



業種別貸出金

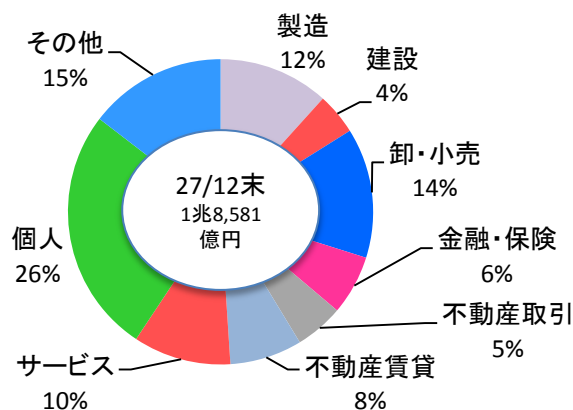
業種別貸出金残高推移 (2行合算)



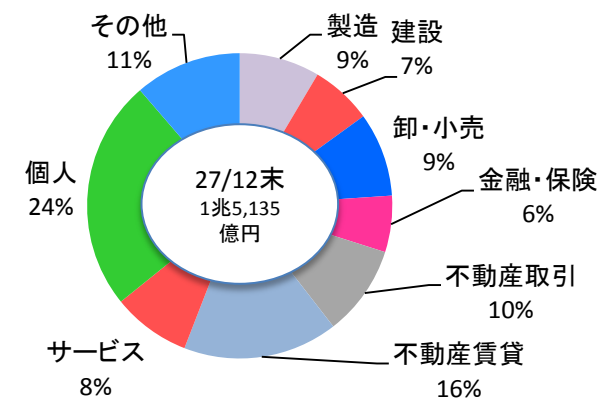
業種別貸出金

- 業種別の貸出金は分散されバランスのとれたポートフォリオ構成となっている。
- 構成比が上位の業種（個人向けを除く）
 - <東京都民銀行>
 - ①卸・小売14% ②製造12% ③サービス10%
 - <八千代銀行>
 - ①不動産賃貸16% ②不動産取引10% ③卸・小売9%
- 住宅ローンは、両行合算で着実に増加。

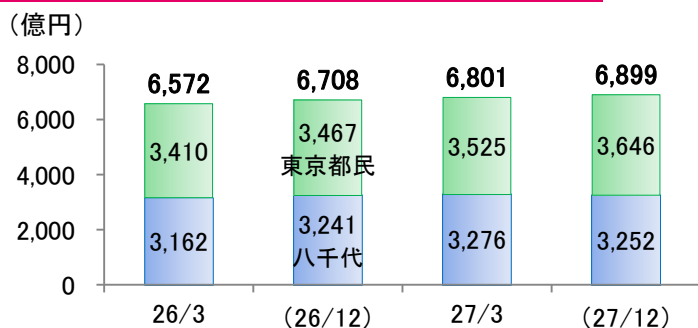
業種別貸出金構成比 (東京都民)



業種別貸出金構成比 (八千代)



住宅ローン残高推移 (2行合算)



預金



■ 預金残高（東京TYFG連結）

（億円）

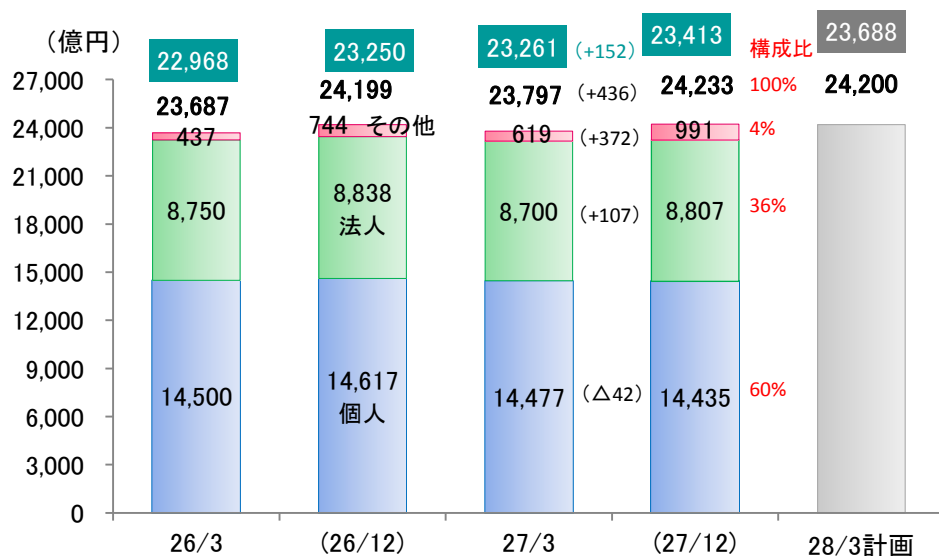
	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
預金末残	45,518	44,913	45,422	+509

◆ 預金残高

- 東京TYFG（連結）の預金残高は、前年度末比509億円増加の4兆5,422億円となる。
- 東京都民銀行は、公金の増加を中心に前年度末比436億円増加の2兆4,233億円となる。
- 八千代銀行は、法人の流動性預金および公金の増加を中心に、前年度末比85億円増加の2兆1,312億円となる。

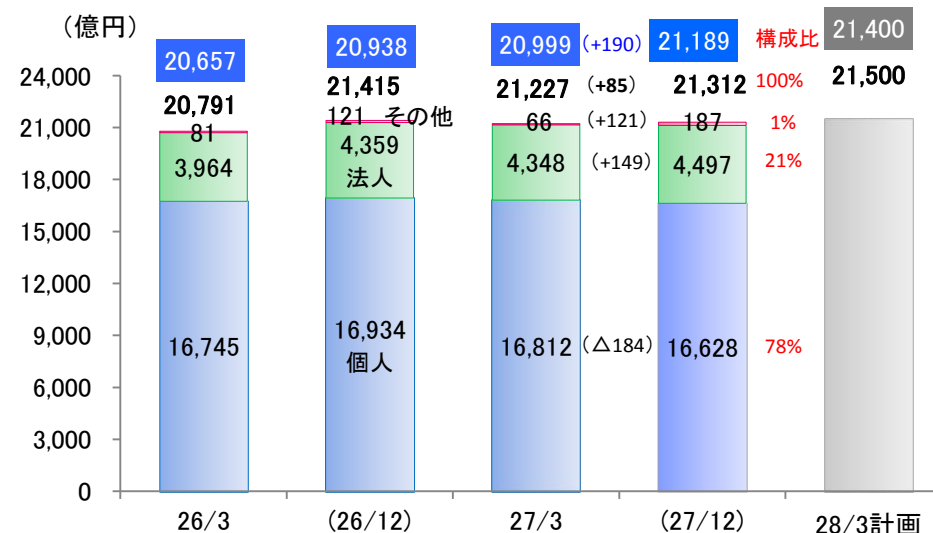
■ 顧客別預金残高推移（東京都民）

（白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減）



■ 顧客別預金残高推移（八千代）

（白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減）



有価証券

■ 有価証券残高（東京TYFG連結）

	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
有価証券末残	11,896	12,368	12,260	△108

(億円)

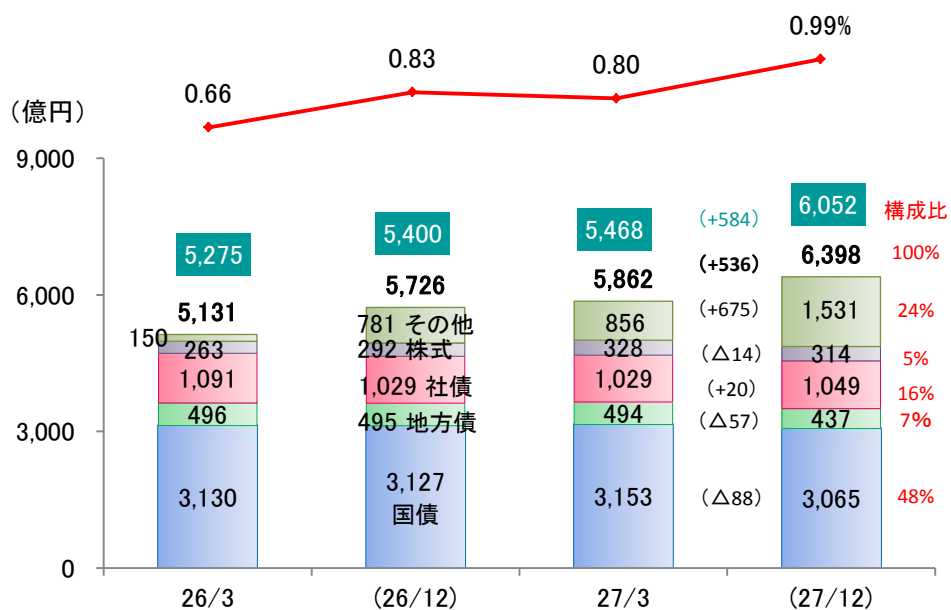
◆ 東京TYFGの預証率 **27.0%**

◆ 有価証券残高

- 東京TYFG(連結)の有価証券残高は、前年度末比108億円減少の1兆2,260億円となる。
- 東京都民銀行は、低金利環境下、運用の多様化を図るべく外債投資を増やしたこと等により、前年度末比536億円増加の6,398億円となる。
- 八千代銀行は、金利リスク軽減等の観点から分散投資を進めた結果、前年度末比624億円減少の5,755億円となる。

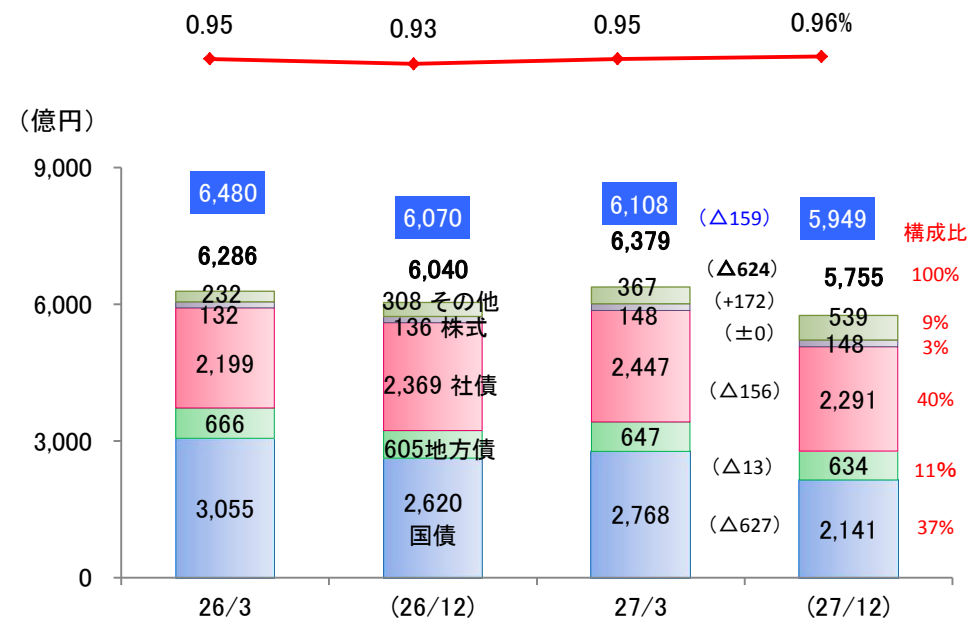
■ 有価証券残高・利回り推移（東京都民）

(白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減)



■ 有価証券残高・利回り推移（八千代）

(白抜き数値は期中平残、カッコ内は前年度末比増減)



預かり資産

■ 預かり資産残高（2行合算）

（億円）

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
投資信託	1,899	2,235	2,272	2,288	+16
保険	1,850	1,892	1,907	2,015	+108
公共債	1,042	914	827	701	△126
残高合計	4,791	5,042	5,007	5,005	△2

◆ 預かり資産残高

- 預かり資産販売の体制整備・強化、お客さまニーズに対応した提案等により、販売を推進。
- 投資信託については、不安定な市況の影響を受け基準価額が低下したこと等により、両行合算で前年度末比16億円の増加となり、保険残高は前年度末比108億円増加。

■ 預かり資産残高推移（東京都民）

（億円）

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
投資信託	1,434	1,658	1,663	1,556	△107
保険	1,186	1,161	1,145	1,144	△1
公共債	319	258	233	193	△40
残高合計	2,940	3,078	3,042	2,894	△148

■ 預かり資産残高推移（八千代）

（億円）

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
投資信託	464	576	609	732	+123
保険	663	731	762	870	+108
公共債	722	656	593	507	△86
残高合計	1,850	1,964	1,965	2,111	+146

金融再生法開示債権・与信関係費用

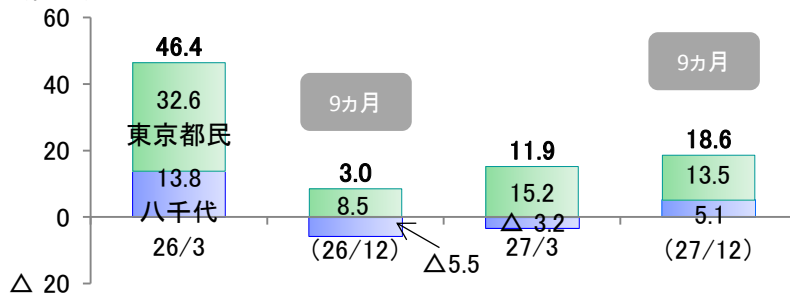
■ 金融再生法開示債権額および比率（2行合算）

（億円）

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
開示債権額	1,236	1,121	1,066	916	△150
開示債権比率	3.76%	3.36%	3.20%	2.69%	△0.51pt

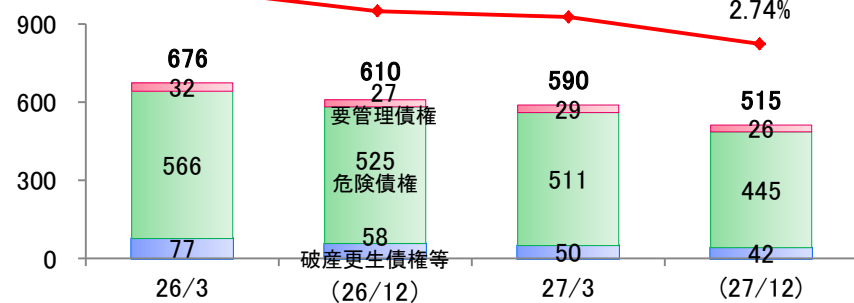
■ 与信関係費用（2行合算）

（億円）



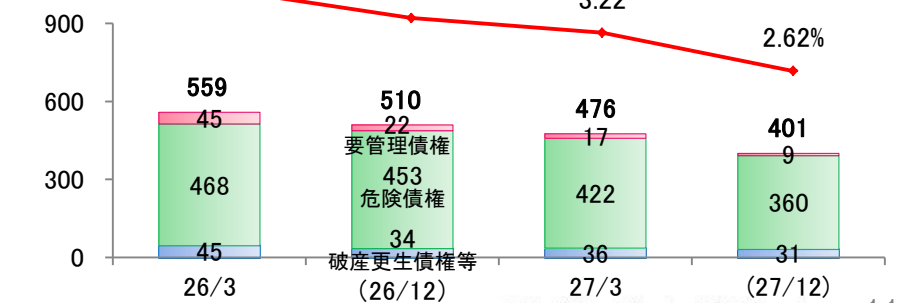
■ 金融再生法開示債権額および比率（東京都民）

（億円）



■ 金融再生法開示債権額および比率（八千代）

（億円）



◆ 金融再生法開示債権額および比率（部分直接償却を実施した場合）

- 開示債権額は、2行合算で前年度末比150億円減少し916億円となる。
- 開示債権比率は、開示債権額の減少が進み、前年度末比0.51ポイント低下の2.69%となる。

■ 両行は、部分直接償却を実施していませんが、実施した場合の計数を記載しております。

◆ 与信関係費用

- 与信関係費用は、貸出先の業況が比較的安定していることや、再生支援等にも注力していることにより低位で推移。

自己資本比率

■ 連結自己資本比率(東京TYFG)

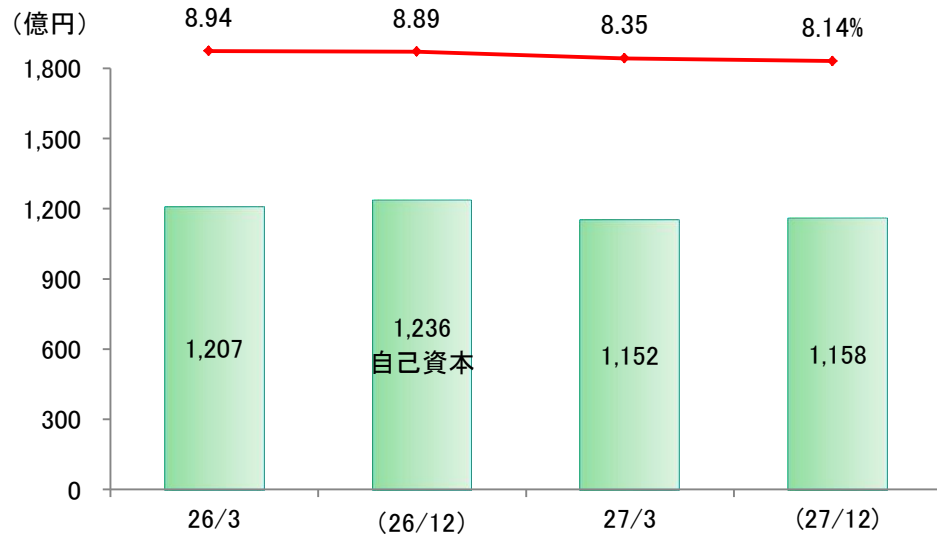
(億円)

	(26/12)	27/3	(27/12)	前年度末比
自己資本	2,376	2,298	2,292	△6
リスク・アセット	24,838	24,814	25,832	+1,018
自己資本比率	9.56%	9.26%	8.87%	△0.39pt

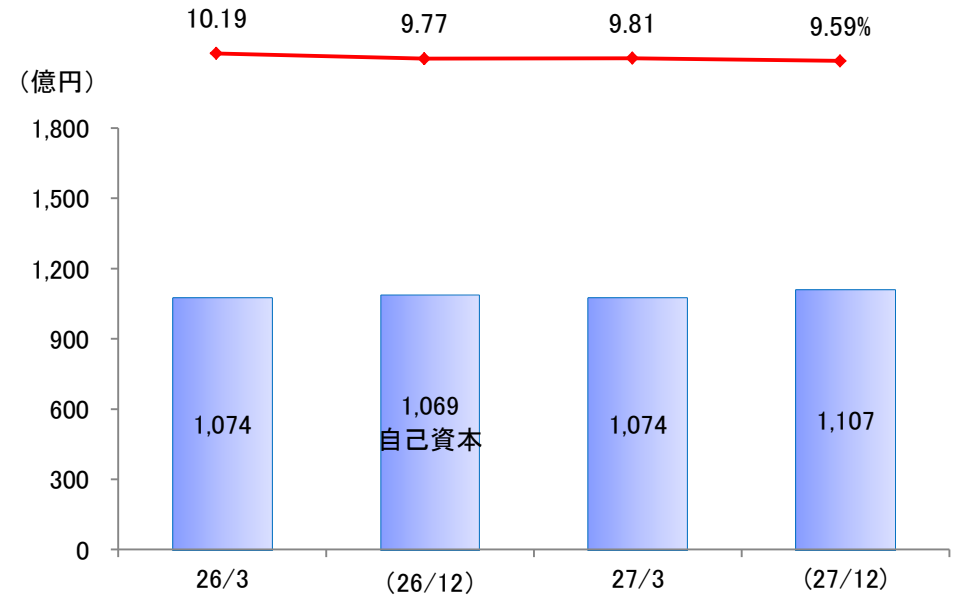
◆ 連結自己資本比率

- 東京TYFGの連結自己資本比率は、前年度末比0.39ポイント低下の8.87%となる。
- 東京都民銀行は前年度末比0.21ポイント低下の8.14%、八千代銀行は前年度末比0.22ポイント低下の9.59%となる。
- 東京TYFG、東京都民銀行、八千代銀行ともに、国内基準の4%を大きく上回り、高い健全性を確保している。

■ 連結自己資本比率 (東京都民)



■ 連結自己資本比率 (八千代)



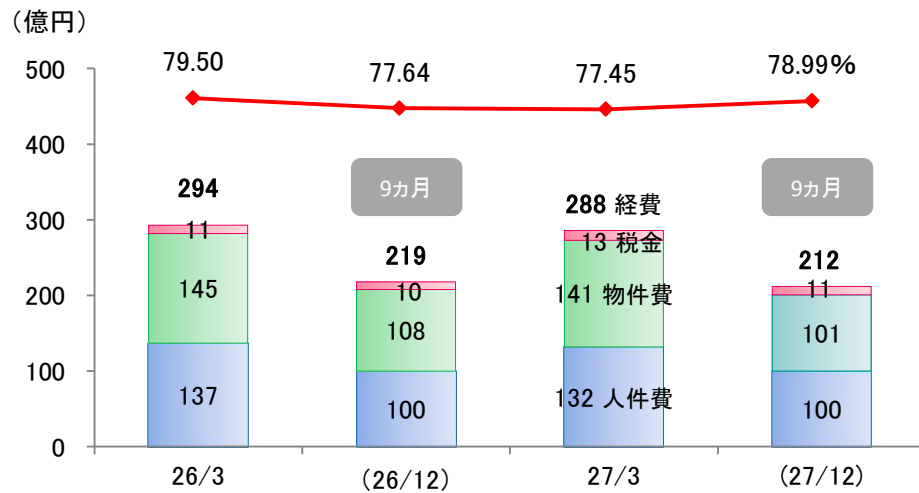
■ コアOHR（2行合算）

	26/3	(26/12)	27/3	(27/12)	前年同期比
コアOHR	81.38%	80.78%	79.68%	79.58%	△1.20pt

◆ コアOHR

○ 2行合算のコアOHRは、経費の減少を主因として、前年同期比1.20ポイント低下の79.58%となる。

■ 経費およびコアOHRの推移（東京都民）



※コアOHR＝経費÷（業務粗利益－国債等債券損益）×100

■ 経費およびコアOHRの推移（八千代）

